

サブスクリプション方式の Oracle Java SE 商用サポート製品

Oracle Java SE Subscription

最新アップデートを適用していますか？



攻撃される脆弱性は **既知の問題** であることが多く、**最新アップデートの未適用** が原因で被害を受けます。

古い Java を使っていませんか？

オラクルはJava SEの最新バージョンに無償アップデートを提供していますがJava SE 8を含む**古いバージョン**への**無償アップデートは終了**しています。



Subscriptionで安全にJavaを長期運用できます。



Oracle Java SE Subscriptionをご購入いただくと、無償アップデート提供が終了したバージョンでも、より**長期のアップデート**をご利用いただけます。
※裏面の脆弱性への対応に関するデータもご参照ください。

パフォーマンスに課題はありませんか？

ハイパフォーマンスでJava SEに完全互換な新しいJava実行環境の **Oracle GraalVM EE** を**追加費用なく** お使いいただけます。

ORACLE®
GraalVM

Oracle Java SE Subscriptionの特徴

- ライセンス費とサポート費が一体のサブスクリプション形式
 - 初年度の高額なライセンス費用が発生しない
 - 1年単位の契約で、過去契約に対する空白期間の請求なし
- 追加費用なしで全てのサービスが利用可能
 - 過去のバージョンを含む全てのアップデートの入手
 - 24時間365日利用可能な問い合わせ窓口
 - 障害発生時の原因調査のサポート

Oracle Java SEのアップデート提供スケジュール

Java version	提供開始	無償のアップデート提供終了	Premierサポート終了	Extendedサポート終了	Sustainingサポート
Java SE 7	2011年7月	2015年4月	2019年7月	2022年7月	あり
Java SE 8 (Plugin 以外※1)	2014年3月	2019年1月※2	2022年3月	2030年12月 ※3	あり
(Java SE 8 Plugin※1)	2014年3月	2019年1月	2019年3月	提供なし	あり
Java SE 9, 10, 12, 13, 14,15		※4, 5	※4	提供なし※4	あり
Java SE 11 - LTS	2018年9月	提供なし※2, 5	2023年9月	2026年9月	あり
Java SE 16	2021年3月	提供なし※2, 5	2021年9月※6	提供なし※6	あり
Java SE 17 - LTS	2021年9月	提供なし※2, 5	2026年9月	2029年9月	あり

※1 Java SE 8のPluginはサポート期間が短くなっております。

※2 個人利用やJavaアプリの開発・デモ等の目的の場合はOTN for Java SEライセンスで提供

※3 2020年1月に当初予定されていたスケジュール（2025年3月）より延長されました。

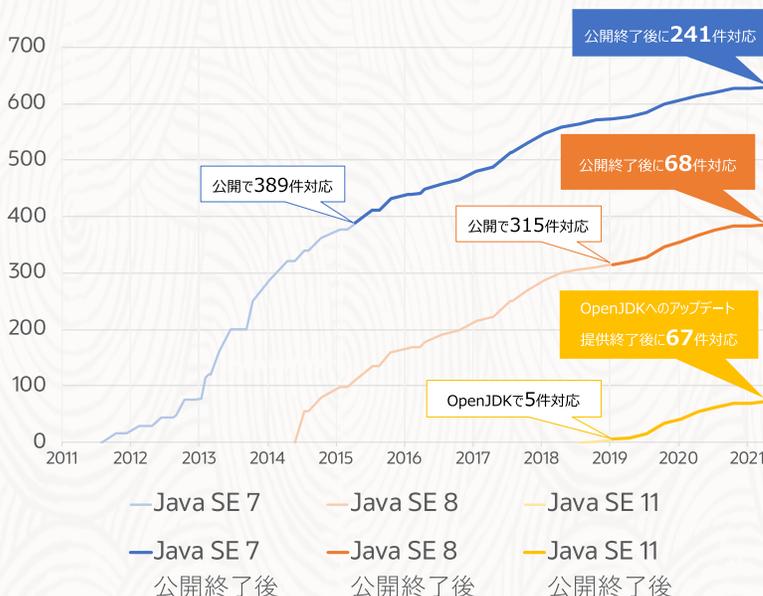
※4 Java SE 9, 10, 12 ~ 15は短期サポートのリリースのため、既にPremierサポートが終了しており、Extendedサポートは提供されません。

※5 Java SE 11以降、オラクルは無償利用可能なバイナリをOpenJDK (jdk.java.net) で提供しています。

※6 Java SE 16は短期サポートのリリースとなり、Premierサポート期間が短く、Extendedサポートは提供されません。

脆弱性対応件数の推移

2021年4月時点



無償アップデート提供終了後の深刻度別脆弱性対応件数

2021年4月時点

深刻度 (CVSS※ 基本値)	Java SE 7	Java SE 8	Java SE 11
緊急 (9.0~10)	42	1	0
重要 (7.0~8.9)	39	13	7
警告 (4.0~6.9)	113	24	27

※ CVSS: Common Vulnerability Scoring System

